

災害を克服し、共に創る「いわき新時代」

いわき市長 清水敏男



元号が令和となり、はじめての年明けに当たり、一言ごあいさつを申し上げます。昨年十月に発生した台風第十九号および十月二十五日の大雨による災害は、本市に甚大な被害をもたらしました。間もなく発災から三カ月を迎えます。この災害により亡くなられた方々に、改めまして哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に、心からお見舞いを申し上げます。市といたしましては、被災された方が、住まいの確保をはじめとした生活再建を一日も早く出来るよう、本年も引き続き、最優先で取り組んでまいります。

さて、本年は、東日本大震災からの「復興の総仕上げ」と「いわき新時代への挑戦」の年になります。本市の震災メモリアル事業の中核拠点施設として、薄磯地内に整備を進めている「いわき震災伝承みらい館」が五月にオープンいたします。また、原子力発電所事故への対応や風評の払拭に引き続き全力で取り組みながら、まさに総仕上げにより、復興を成し遂げていかなければなりません。

また「いわき新時代への挑戦」として昨年掲げました「スポーツ・健康・エネルギー」の三つの重点テーマにつきましては、さらなる飛躍を目指し、取り組みを拡充してまいります。まず、スポーツにつきましては、オリンピック・パラリンピックが開催されるに当たり、三月には「復興の火」の展示や聖火リレーが本市において行われますとともに、サモア独立国のホストタウンとして、その役割を果たしながら、震災から着実に復興する本市の姿を、国内外に発信してまいります。

次に、健康におきましては、人生百年時代を迎え、昨年は健康づくり推進課の設置や推進体制の確立など、健康づくりを支える仕組みを整えました。本年は、健康づくりの拠点である健康・福祉プラザ「いわきゆつたり館」の機能強化や、健康長寿の先進都市である長野県佐久市と協定締結するなど、健康長寿を具現化してまいります。

さらに、エネルギーにおきましては、官民一体となった水素エネルギーをはじめとした次世代エネルギーの取り組みが、地方都市からの挑戦として、全国的にも注目をいただいております。福島イノベーション・コースト構想等と連携し、風力やバッテリー関連産業の集積などの取り組みにより、本市の復興・創生を実現してまいります。

本市は、東日本大震災からの復興・創生の途上で、再び大きな災害に見舞われましたが「ふるさと・いわき」を皆さんと共に再生するため「防災」「減災」「克災」の三つの視点で災害対応力を高め「災害を克服する力強いまち・いわき」、そして、未来につながる「いわき新時代」を共に創ってまいります。



波立海岸の初日の出

常磐地区まちづくり懇談会を開催

～笑顔の集う、活力ある、
フラ・湯のまち 常磐を目指して～



市営天王崎団地跡地の利活用について熱心に提案する参加者

常磐地区まちづくり懇談会を十一月十二日、常磐公民館で開催しました。

同懇談会では「笑顔の集う、活力ある、フラ・湯のまち 常磐を目指して」をテーマに、湯本駅前地区の再生や、温泉地湯本の活性化、地区の安全・安心の確保などについて、住民の皆さんと市長・関係部長が意見を交換しました。その主な内容をお知らせします。

○市営天王崎団地跡地の活用について

【提言】湯本駅前にある市営天王崎団地の解体以降の跡地利活用について、起業意欲の高い民間事業者から跡地利活用の提案を公募す

るなど、市と共に湯本駅前のにぎわいづくりにつながる取り組みを進めていきたいと思います。現段階での市の考えを。

【市】同団地跡地の利活用については、市街地の空洞化の抑制や、いわき湯本温泉の宿泊客数の回復にもつながるよう、湯本駅前地区の活力維持や増進、さらにはにぎわいの創出に向けて、同団地跡地だけではなく、市街地の空き地などの低・未利用地を含め、地区全体を視野に入れた検討が必要であると考える「市街地再生整備検討委員会」を設立しました。

今後、同団地は令和三年

の秋頃に解体を完了する予定としています。それまでの期間に、市は地域の皆さんと積極的な意見交換などを行いながら、情報を共有し、民間活力の活用を含め、同団地跡地をはじめとした魅力ある市街地の再生整備について、検討を進めていきたいと考えています。

○市の観光拠点としてのいわき湯本温泉のあり方について

【提言】東日本大震災、原発事故の影響を受け、観光客・宿泊客の減少が続き、地域の基幹産業である観光業・商業は厳しい経営状況が続いていますが、いわき湯本温泉が市の観光拠点として、どうあるべきと考えているのか、市の考えを。

【市】いわき湯本温泉においては、交流人口が震災前の約五割にとどまっている状況にあり、依然として震災・風評の影響が大きいものと考えられるほか、多様なニーズを的確に把握し、対応できるよう自らも変化することが求められています。いわき湯本温泉は、本市



湯本温泉の女将が集まり、フラ女将として「フラのまち」をPR

にとって欠かすことのできない重要な観光資源と認識しており、地域に培われた常磐炭鉱などの歴史文化、温泉、フラ女将などを改めて経営資源と捉え直し、力を注ぐことで、いわき湯本温泉の観光としての演出、魅力度の向上につながるものと考えています。そのためには、市やいわき観光まちづくりビューローをはじめ、観光業・商工業・農林水産業者などのさまざまな主体が連携し、それぞれが有する知識、能力、情熱を結果しながら、地域全体が一丸となって、いわき湯本温泉の観光地経営を推進していきたいと考えています。